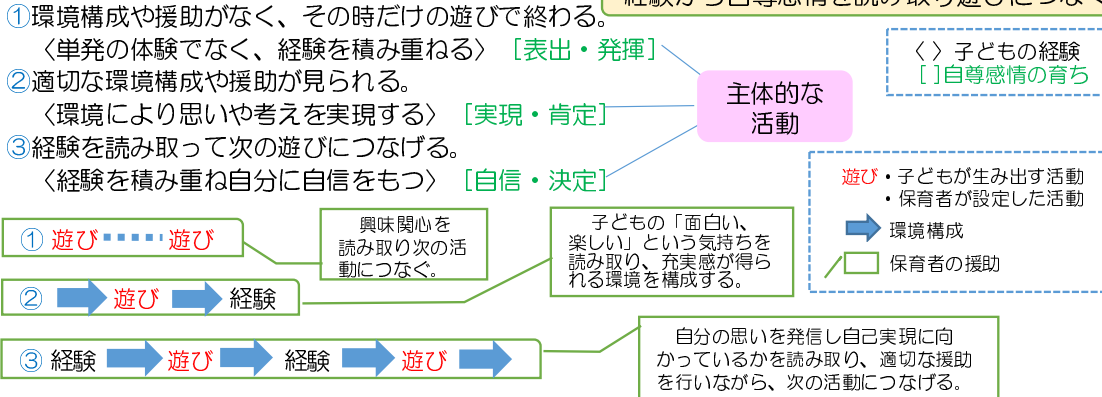


# 自発活動で育む自尊感情 ~支援訪問より~

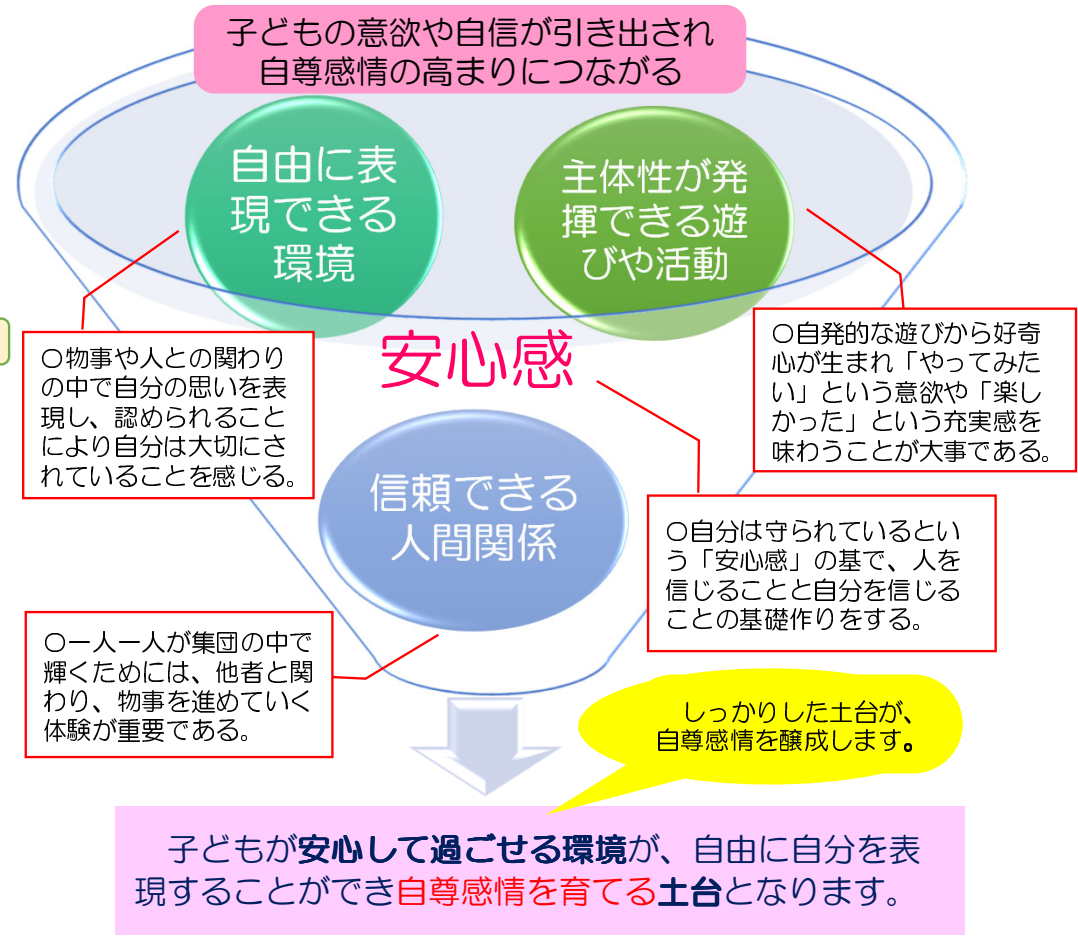
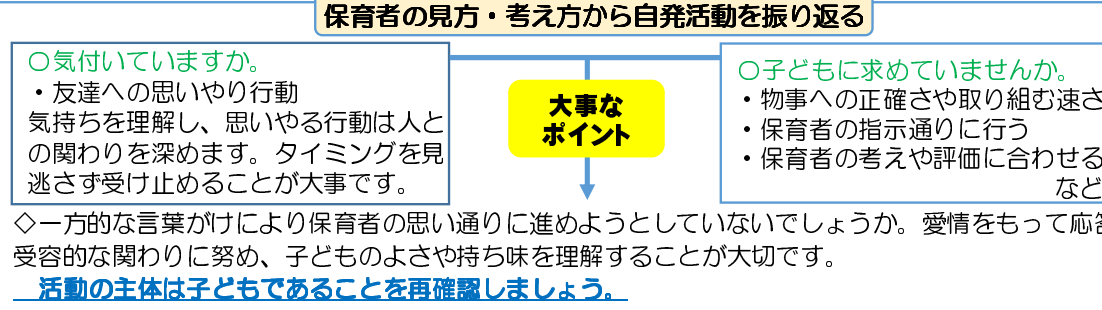
【事例】  
着替えや身の回りの始末を終えた子どもたちが、興味のある場所へと動き出し自分のしたい遊びに取り組んでいた。クラスの子どもが全員揃った頃、保育者が「おにごっこしようか」と声をかけた。それぞれ遊んでいた場所を離れて周りに集まり保育者と一緒に「おにごっこ」が始まった。しばらく遊んでいると片付けの時間になった。

【事例】から自尊感情の育ちを評価してみよう。

- やりたい遊びを選び自分なりに取り組もうとしている【表出・発揮】
- 自分のやりたいことを最後までやり遂げたことに、達成感や満足感を味わっている【実現・決定】



園所では、子どもの**自発的な活動としての遊びを十分に確保することが何よりも必要です。**  
【事例】を明日の活動につなげるためにはどのような環境構成と保育者の援助が必要でしょうか。自尊感情の醸成には子ども自身の【表出】【肯定】【発揮】【実現】【自信】【決定】などが大きく関わります。主体的な活動（遊び）の中で様々な経験を通して、自尊感情が芽生え醸成されていくことを考え、自発活動を振り返ってみましょう。



自尊感情を高めるためには、**【例】**  
子どもの思いや考えを**発揮した遊びを尊重し、満足感・達成感**が得られる**自発活動を支えることが大事です。**  
環境や保育者の関わりが適切であるか右の【例】でチェックしてみましょう。

○ゆったりとした時間と空間  
○見守られているという安心感  
○自分の選択が尊重される環境  
○遊びの面白さや楽しさを共有できる人の存在  
○目的をもって取り組み、出来た喜びを味わえる活動  
○思いや考えを実現するために必要な用具や道具